

2025 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目）※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

1. 学術研究事業

(1) 国際学術交流企画

① コリア研究センター創設 20 周年記念公開国際シンポジウム「朝鮮半島をめぐる対話と交流ー立命館大学コリア研究センターの役割とこれからー」(2025 年 6 月 21 日) 立命館大学朱雀キャンパスにおいて開催し、センター設立 20 周年を機に、これまでの研究成果と今後の韓国学研究の展望について議論した。

② 公開講演会「ハン・ガンさん(2024 年ノーベル文学賞受賞者)のひとと作品ーハン・ガンさんを生んだ韓国文学世界ー」(2025 年 8 月 12 日) 韓江氏のノーベル文学賞受賞を契機として公開講演会を開催し、韓国文学の魅力と現代文学の展開を広く紹介した。

③ 国際共同研究シンポジウム「在日コリアンの家はどこかー情動的社会的性と居住の歴史を中心にー」(2025 年 10 月 30 日) 東亜大学ジェンダー・アフェクト研究所との共催により開催し、在日コリアンの居住史やコミュニティ形成について研究報告・討論を行った。

④ 日中韓 3 大学国際シンポジウム「トランプ時代における国際秩序変容と北東アジア」(2025 年 11 月 14 日) 立命館大学・吉林大学・東国大学の共同開催により、北東アジア情勢をテーマとした国際学術交流を実施した。

⑤ 2026 国際共同研究シンポジウム「非／物質の情動的ネットワークと歴史の『証拠』」(2026 年 1 月 26 日) 東亜大学ジェンダー・アフェクト研究所、北九州市立大学との共催により開催し、植民地主義・ディアスポラ・記憶をテーマに共同研究を行った。

(2) RiCKS 月例研究会

① 第 136 回 RiCKS 月例研究会(2025 年 6 月 27 日) 報告者: 朴恵慶(韓国忠南大学校教育学科博士課程・同志社大学訪問研究員)

テーマ: 「朝鮮学校の卒業式と社会関係資本」

② 第 137 回 RiCKS 月例研究会(2025 年 7 月 25 日) 報告者: ブノワ・ベルトリエ(シドニー大学専任講師)

テーマ: 「『ケイ素のカーテン』を迂回するー冷戦期北朝鮮のコンピュータ、チップ、データと国際技術移転」

③ 第 138 回 RiCKS 月例研究会(2025 年 10 月 24 日) 報告者: 趙 相宇(立命館大学産業社会学部准教授)

テーマ: 「8・15 光復節報道と植民地時代の超克という課題」

④ 第 139 回 RiCKS 月例研究会(2025 年 11 月 28 日) 報告者: 趙一東(韓国学中央研究院教授)

テーマ: 「インディミュージションの映画音楽参加を通じてみた韓国映像産業の変化」

⑤ 第 140 回 RiCKS 月例研究会(2025 年 12 月 22 日) 報告者: 裴姪美(韓国独立記念館韓国独立運動史研究所研究委員)

テーマ: 「政治としての歴史、公共研究所に勤める研究員」

⑥ 第 141 回 RiCKS 月例研究会(2026 年 1 月 23 日) 報告者: 曹友永(慶尚国立大学校教授)

テーマ: 「韓国における共和主義の議論についてー研究・出版の動向を中心にー」

2025 年度は計 6 回開催し、政治学、歴史学、社会学、文化研究など多様な分野から韓国学研究の最新成果を共有するとともに、国内外研究者の交流を推進した。

(3) 研究成果発信(紀要・刊行物)

① 『コリア研究』第 14 号の刊行(2026 年 3 月) 『コリア研究』第 14 号を刊行し、20 周年記念特集をはじめ、韓国学・日韓関係・在日コリアン研究などに関する研究成果を掲載した。また、立命館大学学術成果リポジトリで公開するとともに、第 15 号の投稿募集を開始した。

2. 若手人材育成

博士後期課程院生を RA として雇用し、学術企画・月例研究会の運営に参画させた。また、国際シンポジウムや研究会への参加・発表機会を提供し、海外研究者との交流を通じて次世代韓国学研究者の育成を推進した。

3. 国際研究ネットワーク形成

国際共同研究シンポジウムや日中韓 3 大学シンポジウムを開催し、韓国・中国をはじめとする海外研究機関との連携を強化した。また、2026 年開催予定の「第 13 回世界韓国学大会」の準備を進め、京都を拠点とする国際韓国学ネットワーク(韓国学 Hub Port)の形成に向けた基盤整備を推進した。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2026 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		宋 基燦	映像学部	教授
運営委員		文 京洙	国際関係学部	非常勤講師
		中戸 祐夫	国際関係学部	教授
		庵途 由香	文学部	教授
		石川 亮太	経営学部	教授
		轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
		金 友子	国際関係学部	教授
		松坂 裕晃	国際関係学部	准教授
		勝村 誠	政策科学部	特任教授
		鄭 雅英	経営学部	特任教授
		総田 芳憲	立命館アジア太平洋大学	教授
		金丸 裕一	経済学部	教授
		孫 片田 晶	産業社会学部	准教授
		趙 相宇	産業社会学部	准教授
		張 恵英	経営学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		権 学俊	産業社会学部	教授
		佐々 充昭	文学部	教授
		高屋 和子	経済学部	教授
		中達 啓示	国際関係学部	授業担当講師
		松本 克美	法科大学院	教授
		成田 千尋	衣笠総合研究機構	助教
		崔 正勲	衣笠総合研究機構	准教授
若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシ スタント	李承炫	文学研究科	博士課程後期課程
		小川拓郎	文学研究科	博士課程後期課程
	大学院生			
学振特別研究員 (PD・RPD)				
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)				

客員協力研究員	坂本 悠一	－	－
	戸塚 悦朗	紀尾井町法律事務所	弁護士
	波佐場 清	－	－
	高野 昭雄	大阪大谷大学 教育学部 教育学科	教授
	松本 智也	四国学院大学 文学部 人文学科	助教
	森 類臣	摂南大学 国際学部 国際学科	特任准教授
	林 茂澤	元立命館大学非常勤講師	－
	尹 健次	元立命館大学非常勤講師	－
	梁 仁實	岩手大学 人文社会科学部	准教授
	岡崎 享子	元立命館大学博士課程	－
	田中 隆一	北洋大学留学生別科京都校	専任講師
	崔 瓊元	－	弁護士
	橋本 妹里	－	－
	川瀬 俊治	－	フリージャーナリスト
	金 東僖	高麗大学 民族文化研究院	研究教授
	徐 勝	韓国又石大学校碩座	教授
	坂本 知壽子	延世大学校 社会発展研究所 大阪市立大学 都市・研究プラザ	専門研究員 特別研究員
	宋 基栄	立命館大学	授業担当講師(朝鮮語)
	文 聖姫	週刊金曜日	編集長
	金 泰勲	阪南大学	非常勤講師
	曹 昇美	国立韓国放送通信大学校大学院 法学科	「近現代の法と人権」 科目チューター
	全 ウンフィ	大阪公立大学 文学研究科都市文化研究センター	研究員
	尹 仁魯	韓国研究財団	学術研究教授
	洪 ジョンウン	大阪公立大学 人権問題研究センター	特任助教
	宇都宮 めぐみ		－
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表
	吉川絢子	佛教大学非常勤講師、平安女学院 非常勤講師、龍谷大学非常勤講師	
	青柳 純一	立命館大学衣笠総合研究機構	
	佐々木 亮		編集者・ライター・リ サーチャー
	高 恩美	韓国研究財団	学術研究教授
	沈 熙燦	韓国・延世大学	副教授
	白 凜	立命館大学	非常勤講師
	Park Chris Hyunkyu	一橋大学	非常勤講師
	生駒智一	立命館大学国際関係学部	授業担当講師

	崔 碩烈		
	林 東昊	元民主党蔚山広域市堂委員長及び中央堂最高委員	
	HAM YONGKWON	FREELANCE LANGUAGE TRANSLATOR/EDITOR(ENGLISH/KOREAN)	
	権 太杰	同志社大学 コリア研究センター	ポストドク
	朴伸次	龍谷大学教学部留学生別科 国際学部	非常勤講師
	金泰明	大阪公立大学人権問題研究センター	客員研究員
	金昭羅	大阪公立大学人権問題研究センター	客員研究員
	Lee Kijung	Chonnam National University (全南大学)	教授
	Jo U-Yeong	Department of Social Studies Education, College of Education, Gyeongsang National University (慶尚国立大学 教育学部 社会科教育学科)	教授
	Berthelie Benoit	Senior Lecturer University of Sydney (シドニー大学 准教授)	准教授
	Hur Hojoon	済州 4.3 研究所 理事	理事
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
センター構成員 計 69 名 (うち学内の若手研究者 計 2 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	金友子	エスニック・マイノリティの社会学	共著	2025 年 12 月 20 日	有斐閣	山本かほり, 李洪章, 松宮朝編	pp. 59-79
2	文京洙	現代韓国の軌跡 政治・社会・国際関係	共編著	2025 年 12 月	晃洋書房	中戸祐夫・生駒智一	
3	中戸祐夫	李在明政府の対北朝鮮・統一政策の新展開 —関与 (engagement) の観点から—	単著	2025 年 12 月	『現代韓国の軌跡～政治・社会・国際関係』, 晃洋書房	文京洙・中戸祐夫・生駒智一ほか 8 人	pp.193-207
4	中戸祐夫	「多極化」の中のグローバルサウスと核	単著	2026 年 3 月	『グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する』, 有信堂高文社	中戸祐夫・崔正勲ほか 8 人	
5	中戸祐夫	北朝鮮の核と日韓安保協力	単著	2026 年 3 月	『グローバルサウスと核—「多極化」世界における国際安全保障を再考する』, 有信堂高文社	中戸祐夫・崔正勲ほか 8 人	
6	石川 亮太	アジア経済史	共著	2025 年 4 月	朝鮮関係部分, 岩波書店	古田和子 (編), 太田淳 (編), 小川道大, 柿崎一郎, 平井健介, 村上衛, 脇村孝平	

7	石川 亮太	ある在日韓国人クリスチャン家庭の百年：大阪・林（いむ）家の生活史	単著	2025 年 9 月	かんよう出版		pp. 1-152
8	石川 亮太	日韓ヒジキの道：鳥羽、伊勢、済州島	共著	2025 年 10 月	国立歴史民俗博物館，「REKIHAKU 特集 海藻」		pp. 28-32
9	趙相宇	ようこそ韓国・朝鮮世界へ	共著	2026 年 4 月 27 日	昭和堂	長澤裕子	PP. 147～163

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	金丸裕一	清水安三初期文選（中）－1922 年～1924 年－	単著	2025 年 5 月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第 74 巻第 1 号		pp. 195-240	無
2	金丸裕一	清水安三初期文選（下）－自叙伝「足洗ふ人」（1923 年）	単著	2025 年 9 月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第 74 巻第 2 号		pp. 214-243	無
3	金丸裕一	孫鵬翁「満洲伝道会／東亜伝道会の回想」	単著	2025 年 11 月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第 74 巻第 3 号		pp. 120-133	無
4	金丸裕一	山下永幸小伝－満洲伝道会を牽引した土佐人	単著	2026 年 2 月	明治学院大学キリスト教研究所、『明治学院大学キリスト教研究所紀要』第 58 号		pp. 320-356	有
5	金丸裕一	書評＝富坂キリスト教センター編『戦後日本とキリスト教－敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで』（新教出版社、2025 年）	単著	2026 年 2 月	同志社大学人文科学研究所、『キリスト教社会問題研究』第 74 号		pp. 201-213	招待有
6	金丸裕一	20 世紀東アジア・キリスト教における他者認識の研究－賀川豊彦をとりまく日本と中国、そして台湾の共鳴と反撥－	単著	2026 年 3 月	公益財団法人 JFE 21 世紀財団、『2025 年度 大学研究助成アジア歴史研究報告書』		pp. 1-61	無
7	金友子	マイクロアグレッションとは何ですか？	単著	2025 年 07 月 10 日	『在日コリアンを知る Q&A：多文化共生への 55 のヒント』解放出版社	郭辰雄編著，川瀬俊治編著	pp. 202-205	無
8	金友子	複合差別とはどういうものですか？	単著	2025 年 07 月 10 日	『在日コリアンを知る Q&A：多文化共生への 55 のヒント』解放出版社	郭辰雄編著，川瀬俊治編著	pp. 143-145	無
9	轟博志	古文獻と古地図に見る、分水界の分岐点認識の差異：白頭大幹を事例に	単著	2025 年 12 月	韓国古地図研究学会，韓国古地図研究，17 巻 2 号		pp. 153-172	有
10	轟博志	『輿地図書』の山川条における山嶺来脈表記に関する研究	単著	2025 年 6 月	韓国古地図研究学会，韓国古地図研究，17 巻 1 号		pp. 93-111	有
11	Song Kichan	Repatriation and Reconciliation: Korean Victims of Forced Labor in Japan and David Plath's Documentary So Long Asleep.	共著	2025 年 5 月	Studies on Asia. 10(1)	Byung-Ho Chung	pp. 90-113	有
12	張惠英	「反日映画」は存在するのか？：韓国映画史から見たラベリングの虚構	単著	2025 年 6 月	国際高麗学会日本支部、『コリアン・スタディーズ』第 13 号		pp. 117-130	有
13	文京洙	済州島四・三事件記憶と向き合う	単著	2025 年 9 月	月刊地平		pp. 112-122	無

14	文京洙	米中戦略競争に揺れる東アジア	単著	2025 年 12 月	アジア・アフリカ研究		pp. 5-11	無
15	中戸祐夫	NEWSLETTER No. 4	単著	2025 年 10 月	HK+ National Strategies Research Project Agency, Center for International Area Studies, HUFS		pp. 8-14	無
16	勝村 誠	治安維持法の歴史と今ー「法の暴力」を許さないために	単著	2025 年 8 月	部落問題研究所, 「人権と部落問題」 77		pp. 29-36	無
17	勝村 誠	「いま治安維持法を検証し記憶を継承する意味についてー治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の活動を中心に」	単著	2025 年 10 月	治安維持法犠牲者国家賠償同盟, 『治安維持法と現代』, 2025(秋季号),		pp. 12	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	庵途由香	日本による朝鮮「植民地総動員体制」計画と構築に関する一考察	2025 年 11 月	2025 年度韓日民族問題学会学術大会、オンライン開催	
2	庵途由香	日本の高等教育機関における韓国学教育の課題ー日本における韓国認識変化と韓国学教育	2025 年 8 月 30 日	駐大阪大韓民国総領事館/大阪韓国教育院主催 韓日高等教育協力カンファレンス「韓日高等教育協力の拡張性と持続性」	
3	金丸裕一	山下永幸（満洲伝道会現地代表）を追跡するー土佐、北見、大陸、奉天、別府、天草、渋谷	2026 年 2 月	公開講演会 満洲伝道会／東亜伝道会の謎に迫るー史料整理に向けた予備的考察、金城学院大学	単独
4	김우자(金友子)	요리를 가르치다, 삶이 말해지다 — 식(食)을 매개로 한 재일코리안 여성의 기억과 서사 (料理を教える、人生が語られるー食を媒介とした在日コリアン女性の記憶と語り)	2026 年 1 月 26 日	2026 국제공동연구 심포지움 비/물질의 정동적 네트워크와 역사의 ‘증거’ (2026 國際共同研究シンポジウム「非/物質の情動ネットワークと歴史の「証拠」)、北九州市立大学、福岡県	
5	Wooja KIM	“Woman” and “Zainichi” : Illustrating Intersectional Discrimination	2025 年 10 月 14 日	2025 Kyoto Peace Islands Network Organization(PINO) Forum: United Nations Tolerance Program and Asia Peace Cities Diplomacy in an Age of Digital Civilization, Ritsumeikan University, Kyoto.	
6	金友子	国際ジェンダー学会 2025 年度大会シンポジウムⅠ「日本で考えるフェミニズムとコロナリティ」	2025 年 10 月 4 日	国際ジェンダー学会 2025 年度大会シンポジウム、フェリス女子大学（＋オンライン）	
7	김우자(Wooja KIM)	재일조선인에 대한 미세공격-유형, 역사성, 계속되는 식민주의(Microaggressions against Zainichi Koreans – Types, Historicity, and Ongoing Colonialism)	2025 年 8 月 20 日	제 16 차 코리아학 국제학술토론회, 몽골 울란바토르 몽골국립대학교(The 16th ISKS International Conference of Korean Studies, National University of Mongolia, Ulaanbaatar(NUM), Mongolia)	
8	轟博志	比較文化的視野から見た嶺南地方の地理	2026 年 1 月	慶北大学校退溪研究所第 1 回国際学術大会 世界地域学研究的地平	
9	轟博志	韓国光州市の都市計画における古代武珍州の痕跡	2025 年 9 月	韓国光州市の都市計画における古代武珍州の痕跡	
10	轟博志	朝鮮通信使の梁山使行路と、地域活性化方策	2025 年 5 月	梁山市立博物館特別企画展開催記念・朝鮮通信使と梁山国際シンポジウム	
11	轟博志	朝鮮王朝における使行路ー通信使路を中心にー	2025 年 5 月	交通史学会 50 周年記念大会シンポジウム	
12	轟博志	輿地図書における山の来脈関係に関する研究	2025 年 4 月	韓国古地図研究学会春季学術大会	

13	松坂裕晃	思想史としての訳詩：植民地 期朝鮮におけるブラック・デ ィアスポラ詩	2025 年 7 月	京都コリア学コンソーシウム第 102 回 研究会、同志社大学	
14	松坂裕晃	Reconsidering the Peace Preservation Law from an Inter-Imperial Perspective	2025 年 12 月	The 1925 Peace Preservation Law: History and Legacy、京都大学	
15	Song Kichan	Across the Impossible Path: On Death, Reconciliation, and the Legacy of Chung Byung-ho	2025 年 7 月	SEAA-SNU Anthropology 2025 Conference [Shaping Futures: East Asia as Practice]	
16	宋基燦	현월의 「그들의 집」에 나타난 재일코리안의 '집'에 관하여 玄月の『蔭の棲みか』に現れ た在日コリアンの「家」につ いて	2025 年 10 月	立命館大学コリア研究センター・東亜 大学共同国際シンポジウム『在日コリ アンの「家」はどこなのか?』	
17	宋基燦	트라우마를 횡단하는 인류학적 모험 : 재일동포 연구에서 북한 연구까지 トラウマを横断する人類学 的冒険 : 在日コリアン研究か ら北朝鮮研究まで	2025 年 12 月	韓国文化人類学会 2025 年度秋季研究 大会	
18	張惠英	「反日映画」は「国策」か : 韓国映画史の再検討	2025 年 11 月	日本韓国語教育学会、大阪韓国教育院	
19	張惠英	Beyond the "Anti-Japanese" Film Label: Rethinking the Discourse on Korean Historical Cinema in Japan	2025 年 9 月	第 4 回 EAJIS 日本会議、東北大学	
20	鄭雅英	草創期韓学同の性格	2025 年 5 月	シンポジウム いま「韓学同」を語る～ 「本国矛盾」「在日矛盾」の変容～ (大 阪公立大学文化交流センターホール)	朴一、金早雪、金敬默
21	文京洙	四・三トラウマと在日済州人	2025 年 5 月 27 日	The 20th Jeju Forum for Peace and Prosperity (韓国済州島国際会議場)	
22	文京洙	激動の先は？韓国政治と日 韓関係	2025 年 6 月 20 日	立命館大学東アジア平和協力センター 主催シンポジウム (立命館)	木村幹・波佐場清
23	文京洙	戦後在日朝鮮人の歩みー ＜住民＞の論理と＜民族＞ の論理の狭間で	2025 年 8 月 9 日	在日韓人資料館解放 80 周年記念シン ポジウム (東京 在日韓人資料館)	
24	文京洙	日韓条約締結 60 年日韓関係 の推移と韓国社会	2025 年 8 月 24 日	日韓条約 60 周年シンポジウム (エル大 阪)	
25	文京洙	済州四・三と済州人ディアス ポラ	2025 年 9 月 2 日	<コリア・ディアスポラ : 海を越えた 記憶・境界を越える国家の責任>李ジ ェガン国会議員室主催 (ソウル国会会 館)	
26	文京洙	Jeju 4.3 and Zainichi Society: Beyond the logic of division and exclusion	2025 年 10 月 13 日	Peace Islands Network Organization (PINO) Forum : United Nations Tolerance Program and Asia Peace Cities Diplomacy in an Age of Digital Civilization (オンライン開 催)	
27	文京洙	現代韓国政治の転換——分 断の政治から熟議の政治へ	2026 年 1 月 30 日	立命館大学東アジア平和協力センター 主催研究会 (立命館)	
28	総田芳憲	日本にとっての東アジア集 団安保体制	2025 年 4 月	East Asia Peace Forum 2025, Seoul, South Korea	
29	総田芳憲	Japan's Stance Toward the Cold War on the Korean Peninsula	2025 年 5 月	2025 CIER-Jeju National University Convergence Major in 4.3 Studies International Conference, Gwangju, South Korea	
30	総田芳憲	Peacebuilding on the Korean Peninsula under the Trump Administration - A Japanese Perspective	2025 年 7 月	The 6th Annual Conference of the International Association for Reconciliation Studies (IARS), Seoul, South Korea	
31	総田芳憲	The Erosion of Japan's Pacifism: Its Domestic Dimension	2025 年 11 月	Asia Pacific Conference 2025, Beppu, Japan	

32	中戸祐夫	日米韓安保協力の展望	2025 年 4 月	韓国外語大学 国際地域研究センター＋国家戦略事業団・北海道大学公共政策大学院、場所：北海道大学	李ギテ、金容民、池ヒョンジュ直美、伊藤弘太郎、金ボムス
33	中戸祐夫	Causes and Consequences of World War II in the Pacific: A Japanese view	2025 年 8 月	The 5th East Asia Peace Forum: World War II Reflection and Perspectives Venue: Taipei Grand Hotel, Taiwan	
34	中戸祐夫	Kyoto Peace Diplomacy and Japan-Korea Summit	2025 年 10 月	2025 PINO (Peace Island Network Organization) Forum: United Nations Tolerance Program and Asia Peace Cities Network in an Age of Digital Civilizations Venue: 衣笠キャンパス 洋々館	
35	中戸祐夫	変動する国際秩序の中での日韓関係	2026 年 3 月	2026 韓日平和統一フォーラム 場所：ホテルオークラ京都	
36	勝村 誠	일본에서의 안중근의 동양평화론에 대한 연구 동향 (日本における安重根の東洋平和論についての研究動向)	2025 年 9 月	光復会, 「光復 80 年記念特別企画国際学術シンポジウム」	
37	勝村 誠	재일 한국인 집중 거주 지역 “우트로 마을”의 거주권 투쟁과 현 상황 (在日朝鮮人集住地域「ウトロ」の居住権闘争と現況)	2025 年 10 月	東亜大学校ジェンダーアフェクト研究所, 東亜大学校・立命館大学 2025 年国際共同研究シンポジウム	
38	勝村 誠	우트로 평화기념관 소장 사료의 현황 파악과 데이터베이스화 (ウトロ平和祈念館所蔵史料の現況把握とデータベース化)	2025 年 11 月	(韓国) 国史編纂委員会, 第 3 回国史編纂委員会史料研究国際コロキウム「近現代における日本列島一朝鮮半島間の人の移動と定住に関わる史料の調査および研究」, 同志社大学	
39	石川亮太	근현대 한일 간 해조류의 상품 연쇄 : 톳을 중심으로 (近現代韓日間における海藻類のコモディティ・チェーン : ヒジキを中心に)	2025 年 8 月	국제고려학회 (国際高麗学会), 몽골국립대학교 (モンゴル国立大学), 몽골과학아카데미 국제학연구소 (モンゴル科学アカデミー 国際学研究所), 「제 16 차 코리아학 국제학술토론회 (第 16 回 코리아学国際学術討論会)」	
40	石川亮太	モノを通じた日韓交流史研究の試み : ヒジキの生産・流通・消費から考える	2025 年 11 月	青丘文庫研究会, 青丘文庫研究会 2025 年 11 月例会 (朝鮮近現代史研究会), 神戸市立中央図書館 (神戸市)	
41	石川亮太	From Ethnic Communities to Niche Markets: Life History of an Ethnic Korean Entrepreneur in Japan	2026 年 2 月	University of Auckland, Fukuoka University, the International Society for Korean Studies (国際高麗学会) Oceania Chapter, History from Below: Japan-Korea Peoples' Relations Workshop, Room 2 B1, Fukuoka University	
42	石川亮太	在日韓国人の家族史 : エゴ・ドキュメントと口述資料による接近	2026 年 3 月	동북아역사재단 (東北亜歴史財団), 일본에서 본 한일관계 : 경험, 지역, 표상 (日本 から 見た 韓日関係 : 経験、地域、表象), 동북아역사재단, 서울	
43	石川亮太	日常生活史のなかの四・三 : 食に注目して	2026 年 3 月	在日本済州四・三犠牲者慰霊祭実行委員会, 「土と石の記憶 : 高村竜平さん新著合評会」, 大阪市立生野区民センター 301 会議室	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	シンポジウム いま「韓学同」を語る～「本国矛盾」「在日矛盾」の変容～	大阪公立大学文化交流センター	2025 年 5 月	60 名	
2	シンポジウム「近代日本の植民地統治における国籍と戸籍―満洲・朝鮮・台湾」	帝京大学	2025 年 11 月	50 名	朝鮮族研究学会
3	立命館大学コリア研究センター設立 20 周年記念「朝鮮半島をめぐる対話と交流―立命館大学コリア研究センターの役割とこれから―」	立命館大学朱雀キャンパス	2025 年 6 月	150 名	又石大学校東アジア研究所
4	ハン・ガン（韓江）さん（2024 年ノーベル文学賞受賞者）の人と作品～ハン・ガンさんを生んだ韓国文学界～	箕面市立みのお市民活動センター	2025 年 8 月 12 日	30 名	みのお中国文化に親しむ会
5	2025 国際シンポジウム「在日コリアンの家はどこか～情動的社会的性と居住の歴史を中心に～」	東亜大学校昇鶴キャンパス	2025 年 10 月 30 日	30 名	東亜大学校ジェンダーアフェクト研究所
6	3 大学シンポジウム「トランプ時代における国際秩序変容と北東アジア」	衣笠キャンパス	2025 年 11 月	25 名	立命館大学コリア研究センター 吉林大学東北アジア研究院、東国大学北韓学研究所
7	第 136 回立命館コリア研究センター月例研究会「朝鮮学校の卒業式と社会関係資本」	衣笠キャンパス	2025 年 6 月 27 日	30 名	
8	第 137 回立命館コリア研究センター月例研究会「『ケイ素のカーテン』を迂回する：冷戦期北朝鮮のコンピュータ、チップ、データと国際技術移転」	衣笠キャンパス	2025 年 7 月 25 日	30 名	
9	第 138 回立命館コリア研究センター月例研究会「8・15 光復節報道と植民地時代の超克という課題」	衣笠キャンパス	2025 年 10 月 25 日	30 名	
10	第 139 回立命館コリア研究センター月例研究会「インディミュージシャンの映画音楽参加を通じて見た韓国映像産業の変化」	衣笠キャンパス	2025 年 11 月 28 日	30 名	
11	第 140 回立命館コリア研究センター月例研究会「政治としての歴史、公共研究所に勤める研究員」	衣笠キャンパス	2025 年 12 月 22 日	30 名	
12	第 141 回立命館コリア研究センター月例研究会「韓国における共和主義の議論について―研究・出版の動向を中心に―」	衣笠キャンパス	2026 年 1 月 23 日	30 名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	庵途由香	（講演）“Cooperative Education for ‘East Asians’ ”	2026 Young Ambassador Program, by TRC, 6th Jan, 2026 At Korea University Sejong Campus	2026 年 2 月 7 日
2	金友子	マイクロアグレッションを理解する～無自覚な差別・排除への気づき～	京都府立山城高等学校 教職員人権研修	2026 年 3 月 2 日
3	金友子	マイクロアグレッション：無自覚な差別・偏見（京都市立開建高等学校（京都市南区））	京都市立開建高等学校 3 年生 人権学習講演	2025 年 10 月 6 日
4	金友子	多文化共生社会づくりのための意識啓発——マイクロアグレッションを理解する（オンライン）	一般財団法人自治体国際化協会、2025 年度 多文化共生マネージャー養成研修	2025 年 9 月 10 日
5	金友子	マイクロアグレッションを理解する：無自覚な差別・排除への気づき	京都市消防学校 人権講座	2025 年 8 月 1 日
6	金友子	在日コリアン女性の複合差別（日本（オンライン））	一般社団法人新時代アジアピースアカデミー（NPA）、NPA 講座[コース 07] 在日コリアンと「私」 Part12 ― 朝鮮半島の 国家暴力と人権	2025 年 6 月 25 日
7	張惠英	俳優として、映画人として：チェ・ミンシクと韓国映画の深層	立命館大学産業社会学部創設 60 周年記念イベント	2025 年 4 月 26 日
8	鄭雅英	講演「中国朝鮮族の移動とエスニシティ」	大阪公立大学「コリアンスタディ」	2025 年 11 月 15 日

9	文京洙	講演「済州4・3と在日社会」	新時代アジアピースアカデミー (NPA) 第15期 (オンライン)	2025年4月17日
10	文京洙	時論「4・3トラウマと在日済州人」	『済州日報』	2025年6月20日
11	文京洙	時論「4・3被害未申請者発掘の課題」	『済州日報』	2025年10月29日
12	文京洙	時論「植民地期体制と済州4・3」	『済州日報』	2026年1月5日
13	中戸祐夫	ホン・ソクジェ「李大統領、反日憂慮払拭 過去史以外協力空間はとて も広い」『ハンギョレ』(韓国語) 2025 年6月13日	『ハンギョレ』(韓国語) 2025年6月13日	2025年6月13日
14	中戸祐夫	ホン・ソクジェ「過去史・領土問題 強硬『女安倍』 日韓未来協力試験 台」	『ハンギョレ』(韓国語) 2025年10月22日	2025年10月21日
15	中戸祐夫	Japan, South Korea leaders vow to foster 'future-oriented' relations Japan Prime Minister Takaichi says first summit with Lee was 'warm' and 'enjoyable' (interview)	『Nikkei Asia』(英語) 2025年10月30日	2025年10月30日
16	中戸祐夫	Academic Exchanges with Korea at Ritsumeikan University: Institutional Initiatives and Personal Reflections	日韓国交正常化60周年記念 第18回日韓研究 者交流協会シンポジウム／日本学術振興会 日 韓研究者交流協会	2025年9月26日～2025年9月27日
17	中戸祐夫	Between History and Strategy: The Future of Japan-Korea Relations in the U.S.-ROK-Japan Triangle	Kyoto Consortium for Japanese Studies / 同志社大学	2025年11月11日
18	石川亮太	塚崎昌之さんの研究を振り返って: 大阪・戦争・在日	在日韓人歴史資料館土曜セミナー(第136回), 在日韓人歴史資料館	2025年10月11日
19	石川亮太	塚崎昌之さんの研究を振り返って	15年戦争研究会, 「15年戦争研究会第289回研 究会」, 関西学院大学梅田キャンパス1002教室	2026年2月1日
20	石川亮太	家族のことばでたどる歴史	生野区在日韓国朝鮮人・多文化共生ネットワ ーク(じゅうみんといろ), 『ある在日韓国人クリ スチャン家庭の百年:大阪・林家の生活史』出版 記念ブックトーク	2026年3月21日
21	石川亮太	『ある在日少年の原風景』を読んで	合評会:玄善允著『ある在日少年の原風景』, King of Kings (大阪市)	2026年3月29日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業 (科研費)						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	金丸裕一	近代日中クリスチャンの交流と相剋をめぐる実証研究	基盤研究(C)	2025年4月	2029年3月	代表
2	金友子	マイクロアグレッション概念の社会的含意に関する研究——在日朝鮮人を事例として	基盤研究(C)	2023年4月	2025/03/21※1 年延長した	代表
3	松坂裕晃	トランスパシフィック思想史・社会運動史の研究:「アフロ・アジア」の視点から	若手研究	2023年4月	2026年3月	代表
4	文京洙	占領期日本と朝鮮半島間の越境移動に関する研究	基盤研究(C)	2024年4月	2027年3月	代表
5	石川亮太	帝国史の視点から見た植民地朝鮮の水産・海洋知の形成:朝鮮総督府水産試験場を中心に	基盤研究(C)	2023年4月	2026年6月	代表
6	石川亮太	19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究	基盤研究(A)	2022年4月	2027年7月	分担
7	石川亮太	朝鮮海出漁資料からみた植民地社会の実態研究	基盤研究(B)	2024年4月	2027年3月	分担

8	石川亮太	中印モデル創生によるグローバル比較史の刷新——「先進国」モデルからの脱却	基盤研究(A)	2025年4月	2029年3月	分担
9	孫片田晶	移民と＜混血＞—東アジアのディアスポラ・コミュニティを中心に	基盤研究(B)	2025年4月	2029年3月	分担
10	趙相宇	歴史対話を可能にする『東アジア現代メディア史』に向けた国際連携研究	基盤研究(B)	2024年4月	2027年3月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	勝村誠	海外独立運動史跡地調査点検	大韓民国独立記念館	2014年5月	2027年	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								